

りとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2019年12月号

今年もだんだんと終わりに近づいてきました。皆さんはどんな一年をお過ごしでしたでしょうか。2019年も、りとるらいふ通信をご愛顧頂きありがとうございました。それでは、今年最後のりとるらいふ通信をお楽しみください(#^.^#)



2人の課長にインタビュー！

りとるらいふ について

～日中支援課課長 久保 久美子～

Q 今までの「りとるらいふ」で一番心に残っていることは何ですか？

A 自分がこれまでりとるらいふに勤めてきて心に残っていることはたくさんあります。例えば、創設者である片桐さんから「この仕事をする時と決めたとき、自分の親の死に目よりも利用者を取る覚悟で始めた」という言葉を聞いたこと。ららん現場長になって一番余裕がなかった時に、つい急ぎ足でダウン症のお子さんを誘導し、ご本人を行動停止させてしまい、それを後輩に心配されて悔しくて情けなくて帰宅途中で号泣したこと。医療をもたない自分たちの支援の限界を感じ、対象児童を次のステージへ送り出すことを決める会議で職員同士の感情があふれ出したこと。地域住民の方に迷惑をかけ、「結局あんたたちは商売でここにいるでしょ。私たちは住んでいるんだよ」と思いを伝えられ、「地域でいきるを支援すること」の本質的な難しさを感じたこと。まだまだここには書ききれない思い出がたくさんで、そしてどれもが私を常に成長させてくれた深い思い出です。もっと聞きたい方は、ぜひお時間を作って久保のところに来てください。



Q 今後のりとるで大切にしていきたいことは何ですか？

A 「今後」というよりも、今までずっと自分として大切にしてきたことであり、今後も変わらず大切にしたいことがあります。それは、「思い」が中心にある支援現場でありたいということ。この仕事は人と人の仕事です。利用者と支援者も、保護者と支援者も、支援者と関係者も、みな人間です。それぞれの思いがあり、それは機械ではない「人」だからあるのだと思います。マニュアル化・組織化・効率化。支援者が増え、利用者が増えたからこそ、様々な形作りをしてきたわけですが、自分としてはやっぱりこの仕事の本質であり大切にすべきは人間の心だと思っています。下手でもいい、失敗してもいい、その決断をまちがえたと誰かが非難しても、「自分自身が真剣に考えて必死でその人のためにやったことなら正々堂々と次の成功に繋がればいいじゃない！」そんな風に、機械のようなではない、人間くさい、思いの語れるりとるであれればと思っています私です。

～居住支援課課長 松田 清司～



Q 今までの「りとるらいふ」で一番心に残っていることは何ですか？

初対面の開口一番に「血液型は何型か？」は、ある意味一番印象に残っています。印象に残っている事はたくさんあります。その中の一つ、当時利用されているある方の支援方針について、職員全員でその人の支援に関して遅い時間まで話し合いをしたこと。本人含め、家族全員の生活環境が変わり、今までと同じ生活が出来ない。サービス提供事業所としての答えを出さなければならない。本人のことを考えれば…、家族のことを考えると…帰宅してもスッキリしなかった事では一番心に残っています。

Q 今後のりとるで大切にしていきたいことは何ですか？



楽しい事、悲しい事、嫌な事、嬉しい事があっての人の営みだと私は思っています。私が大切だと思う事は「多くの体験を積むこと」です。この体験には、いろいろな出来事との遭遇や、外の景色や出来事から感じる気持ちも同じ意味と捉えています。キラキラした華やかな現実もあれば、泥臭い現実を見る事もあります。ただ、毎日の暮らしは良くはないけど、悪くはない「ふつう」の暮らしの連続で、楽しいときには笑って、嫌なことがあったときは「ムツとして」、人によっては悔し涙を流すときもあると思います。体験から感じる事や考えることで、新しい興味関心から楽しいことが生まれると思っています。その結果、今の私の趣味は広く浅く一部は深く、です。

アールフルーツの展示会が行われました！

先日「あすとぴあ高田」「リフレリアホール」の二つの会場に、市内から集まった数多くの作品が展示されました。独創的な世界観で作られた作品はどれも素晴らしく、思わず見入ってしまうものばかりでした。素敵な作品をご応募いただいた皆様、ありがとうございました。



学校の実習も無事に終わった 11 月、「実習お疲れ様でした！」を兼ねて普段にこをご利用している高校生全員に声をかけ、ボウリング大会を開催いたしました！ 4 チームに分け、そこにスタッフも入り、各々楽しみました。利用日が異なるお友達同士応援しあったり、投球するお友達のお手伝いを颯爽としてくださったり、どう投げたらピンが倒れるかレクチャーしてくれたり……。チーム、年齢、学校、男女関係なく、にこにこ楽しんで交流しあう姿がとても印象的でした。にこの室内だけではわからなかった、優しい一面もたくさんうかがえることが出来ました！



今月はららんは、長野県の信州フルーツランドへ「リンゴ狩り」に出掛けてきました。畑に入ると、たくさんの赤く実ったりんごがお出迎えしてくれました。広い畑を探検しながらお目当てのリンゴを見つけると「あれとりたい！」「これ！」と素敵な笑顔で教えてくれました。獲ったばかりのリンゴは甘くてジュシーで、皆さん夢中になって食べていました。中には丸かじりをしたご利用者様もいらっしやり、芯まで食べてしまいそうな勢いでほおぼっていました。帰られる際にお土産に持ち帰ったりんごを、皆さん嬉しそうに保護者の方に見せていました。



ともでは、11月4日の祝日にいもり池に、秋を感じにお出掛けしてきました(^^)澄みきる秋風で、寒さが身に染みる気候のなかでしたが、赤く色づいた紅葉を見たり、綺麗な黄色のイチョウ並木の中を散策して楽しみました！！散策中には、皆さんでワイワイとおしゃべりも楽しみました！！寒い中でしたが、散策後にはソフトクリームも味わい、皆さんの笑顔が輝いた充実した時間が過ごすことが出来ました。寒さも厳しくなり冬の訪れもあと少しとなりましたね※寒さに負けず皆さんで思い出をつくって楽しく元気に過ごしましょう☆

秋も深まる 11月🍁きょうでは、普段一緒にの部屋で活動している利用者のグループごとに 4 日間に分けて柏崎市の赤坂山公園に紅葉狩りに行って来ました！4日間のうち3日間は残念ながら天候に恵まれず雨に降られ、晴男晴女が少ないきらですが…紅葉はとってもきれいに色づいており、秋を感じることができました(*^_^*)紅葉を見ながらたくさん歩いた後はみなさんお待ちかねの昼食♪せっかくの機会だったので外食も楽しみました。海鮮丼、タレカツ丼、ラーメン、お寿司…とそれぞれ好きなものを選び「おいしい！！」とあっという間に完食されていました。寒さに負けなくらい元気いっぱいの笑顔があふれる 4 日間でした(^^)♪



大切な掌 (たなごころ)。掌と書いて、たなごころと読むのをご存じですか？掌には心があるとされています。目で見たり、耳で聞くよりも、自分の手で触れることで、温もりや優しさを知ることができる。そんな掌を大切にしてみよう、もーとでは絵の具の感触も楽しみながら自身の手形を取りました。好きな色を選び掌に絵の具がついた瞬間手をにぎにぎしながら顔をしかめたり、「わー！！」と叫びながら笑顔になったり「冷たくて気持ちいい〜」なんて意外な言葉を発したり (笑) 絵の具を存分に肌に感じながら笑顔があふれる楽しい時を過ごしました。



『漫画人生Ⅱ』

障害福祉事業部りとららいふ
放課後等デイサービスららん
主任 山本翔平

皆様お待たせ致しました。私の唯一の趣味であります『漫画』のお話をする時期がやってきました。面白くないかもしれませんが、前回に引き続き、また私の思い出話に少しお付き合いください。

前は“漫画の面白さ”に触れた当時のお話をさせて頂きました。今回はどのようにして単行本を収集していったのかをお話しさせて頂きます。私が中学生だった頃、仲のいい友だちの家に遊びに行った時に1冊の漫画に出会いました。それは“ラブひな”という漫画でした。知っている人もいかもしれませんが、今で言う“ラブコメ”というものです。当時、目の前にあっても読もうと思わないようなジャンルの漫画でしたが、なぜかその日だけは手に取り、読みました。ページをめくっていくうちにどんどん内容にのめり込んでいきました。友だちの家には全14巻中、たしか5巻くらいまでしかなかったと思います。“次が見たい…次が見たい…次が見たい!!”“よし全巻集めよう!!”これが漫画を集めるきっかけになるのです。

高校生になる頃には現在の3分の1くらいは収集できていたと思います。その頃に一番ハマっていたのは“刃牙”という漫画でした。少しこの漫画の紹介をさせて頂きます。この漫画はシリーズになっており『グランプラー刃牙 42巻』⇒『バキ 31巻』⇒『範馬刃牙 37巻』⇒『刃牙道 現在進行中』このような流れになっています。この他にも特別版みたいな巻もあり、かなりのボリュームになっています。ちなみにこのシリーズは全巻持っています。内容を簡単に説明すると“刃牙”という主人公が自分の父親を倒すために体を鍛え、格闘技を学び、沢山の強い人と戦うというストーリーです。この父親が地上最強の生物といわれており、強すぎてアメリカと友好条約を結ぶくらいです…。と、こんな感じに戦うシーンももちろん面白いですが、ありえないような話が急にできたりする所もこの漫画の魅力です。是非見て下さい！！

この頃に私は衝撃的な経験をしました。それは“漫画喫茶”でした。私にとってはまさに夢の空間でした。高いと思うか安いと思うかは人それぞれだと思いますが、だいたい3時間1000円です。飲み物は飲み放題、アイスも食べ放題です。今では気軽に行ける場所ですが、私の地元になんな素敵な場所はなく、ただただ田んぼが続くような所でした…。そんな衝撃的な経験をした高校時代を経て、専門学生、社会人へと話は流れていくのでした。社会人になった私は漫画収集をさらに加速させていきます。その理由はやはりお給料がもらえるようになり、自分の車が入ったからだと思っています。

高校時代からバイトをしており、収入がないわけではありませんでしたがお給料に比べれば全然少なかったです。なのでまとまったお金を手にした私は初めての“大人買い”をするのでした。最初は大人買いといっても中古の本を10冊ほどまとめて購入するくらいでしたが、それがどんどんエスカレートしていき、新品の単行本を50冊や70冊と購入していくのでした。部屋がどんどん狭くなっていきました。ある日父親に本の棚あるかと聞かれ、欲しいと答えると大きな棚をくれました。実はこの棚は前回の時に書いた、閉店した本屋さん棚でした。父親はその片付けの手伝いに行き、棚をもらって来てくれたのです。本屋さんの棚なのでとても大きく、すぐに本を棚へ並べて見上げました。本屋さんで見えるような光景が自分の部屋で見れることにとても感動したことを今でも覚えています。

そんな色々な時代に漫画に関する思い出があって、現在に至ります。現在はスライド式の棚が2つ、普通サイズの棚が2つあります。あれ？言ってるほど多くない？と思いますよね。実はスライド式の棚の上に大量に漫画本が積まれており、他にも段ボールに入っている漫画もあり、早い話…棚が足りていません…。そして棚があったとしても置き場所がありません…。そこで私の次の目標はマイホームを建てて、漫画本だけの部屋を作ること、これはだいぶ前から思っていたことですが、地元で漫画喫茶を経営することです!!どちらも今の私にとって困難な道ですが、夢に向かって日々精進していきたいと思っています。

正直、私は勉強ができる方ではありません。しかし、漫画を読んでいたからこそ知れた漢字や言葉、知識などがあり、社会人になってからとても役立っています。また、漫画を通じて人との繋がりができたり、コミュニケーションツールになったり仕事をする上でとても役に立っています。私は漫画を購入するために使ったお金や、漫画を読むために使った時間を無駄だと一切思いません。それは漫画から得たものが沢山あるからです。

私にとって“漫画＝人生”です。

皆様、こんな感じの漫画が見たいと言って頂ければ私が知る範囲で紹介させていただきますので、声をかけて頂ければ幸いです。こんなたいしたことのない思い出話に長々とお付き合い頂き、ありがとうございました。